

自己点検書

(2 . 自己点検結果編)

芝浦工業大学 工学部 電子工学科

電子工学コース

(エンジニアリング系学士課程)
(電気電子及び関連の工学分野)

Electronic Engineering

審査分類：新規審査

記入上の注意

- ・白色のセルにのみ記入してください。着色及び網かけのあるセルには記入しないでください。
 - ・「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を満たし、さらにそれを上回る取り組みを行っている
 - ：認定基準の要求事項を満たしている
 - △：認定基準の要求事項を概ね満たしているが、改善の余地がある
 - ・「基準への適合状況の説明」欄に説明を簡潔に記入してください（多くても200文字程度）。
 - ・「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください（多くても200文字程度）。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「C：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善、変更
 - ・「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と所在を記入してください。
添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
インターネット上でアクセスできるものについてはURLを記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。
-

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	基準1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。				
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	○	本学の建学精神である「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を踏まえ、本プログラムで育成しようとする技術者像は、「電子工学の基礎をもとに、継続的な自己研鑽と他者・他分野と協調し、新たに創出される技術開発や課題解決に取り組むことができる活力のある技術者」と定めた。		【T02】技術者像打合せ議事録
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	○	1959年に設立以来、電子工学を中心とした教育を行い、製造業を中心に幅広い分野に多数の人材を輩出してきた(資料T03)。修了生が今後も継続的に幅広い分野で活躍するために、①継続的な自己研鑽のもと、問題を解決する総合的なデザイン力、②説得力・論理力のある表現と判断力・想像力をもって相手と接する表現・対話能力、③他者・他分野と協調して課題に取り組む力、を備えた技術者像としている。		【T01・J01】学修の手引 【T02】技術者像打合せ議事録 【T03】過去3年分電子工学科卒業生進路先一覧
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	○	入学年次のアンケートの結果、本学科への積極的な進学理由として、①電子工学に関する知識・能力を身につけたかった、②就職に有利だと思ったからの2項目が半分近くあり、専門に関する知識を身につけ社会で活躍したいとの要望が強い。企業対象のアンケートでは、在学中には電子工学の基礎的内容を身につけて欲しい、が半分以上あった。このため、電子工学を基礎に工学系分野全般で活躍できるような技術者像となっている。		【T04・J31】学科アンケート 【T56・J21】リクルーターアンケート
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	○	学科ホームページに技術者像を示し、学内だけでなく学外にも公開している。今後、入学年度に配布される「学修の手引」において、教育方針の項で詳細に説明されている。		【J01】学修の手引(2013年度以降) 電子工学科ホームページ 技術者像 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/tokusyoku.html
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	○	学科ホームページに技術者像を示し、本学科教員、共通学群教員、および在学生全員に周知している。さらに、新入生に対しては学科ガイダンス時にJABEE説明会を開催し、資料を配付してカリキュラムの背景を含んで説明を行っており、十分な周知がなされていると考えている。		【J01】学修の手引(2013年度以降) 【J02】JABEE説明会資料(2013年度以降) 電子工学科ホームページ 技術者像 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/tokusyoku.html
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標を設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？	○	技術者像、育成する学生像、ディプロマポリシー、学習・教育到達目標の間には資料【T05】に示すような対応がある。ディプロマポリシーについて、2010、2011年度は①知識・理解、②自己表現力・対話能力、③態度・志向性、④創造的思考力について、2012年度以降は①基礎知識・応用力、②自己表現力・対話能力、③態度・志向性を項目としている。		【T05】技術者像、育成する学生像、ディプロマポリシー、学習・教育到達目標間の対応表 【T06・J03】ループリック作成ミーティング議事録 【T01・J01】学修の手引（2010年度以降）
1(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				
1(2)[2](a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	○	添付資料に【T53】示すとおり、知識・能力(a)の内容は、本プログラムの目標AとBの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2、3に示すように人文社会系、共通工学系教養科目で主として育成する。これらの科目により、豊かな教養と幅広い視野を養う能力を身につける。そのため目標AとBの知識・能力を育成し、これより知識・能力(a)の内容を達成している。		【T53】自己点検書 表2(a～iの抜粋) 自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	○	添付資料に【T53】示すとおり、知識・能力(b)の内容は、本プログラムの目標BとAの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2、3に示すように科学技術倫理学、技術者の倫理、先端技術、電子工学ゼミナール、卒業研究の科目で主として育成する。これらの科目により、技術者の責務の理解と高い倫理観を身につける。そのため目標BとAの知識・能力を育成し、これより知識・能力(b)の内容を達成している。		【T53】自己点検書 表2(a～iの抜粋) 自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力	○	添付資料【T53】に示すとおり、知識・能力(c)の内容は、本プログラムの目標CとDの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2、3に示すように数学、物理、化学よりなる数理基礎科目、数理専門基礎科目、言語情報系科目で主として育成する。これらの科目により、現象を論理的に考え理解する能力を身につける。そのため目標CとDの知識・能力を育成し、これより知識・能力(c)の内容を達成している。		【T53】自己点検書 表2(a～iの抜粋) 自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力	○	添付資料【T53】に示すとおり、知識・能力(d)の内容は、本プログラムの目標D、E、F、GおよびC、Jの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2、3に示すように電磁気学、電気・電子回路、二分野の専門科目で主として育成する。これより専門基礎知識と応用力および情報収集・解決能力を身につける。そのため目標D、E、F、GおよびC、Jの知識・能力を育成し、これより知識・能力(d)の内容を達成している。		【T53】自己点検書 表2(a～iの抜粋) 自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	○	添付資料【T53】に示すとおり、知識・能力(e)の内容は、本プログラムの目標H、JとFの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2、3に示すように、電子工学一般、実験科目、卒研関連科目で主として育成する。これらより、総合的に物事を判断し、社会の要求する課題を解決するためのデザイン能力を身につける。そのため目標H、JとFの知識・能力を育成し、これより知識・能力(e)の内容を達成している。		【T53】自己点検書 表2(a～iの抜粋) 自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	○	添付資料【T53】に示すとおり、知識・能力(f)の内容は、本プログラムの目標KとFの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2、3に示すように電子工学一般、英語科目、実験科目、電子工学ゼミ、卒業研究で主として育成する。これらより、自己の意見を論理的に記述および説明し、他者と討論および意思疎通ができる能力を身につける。そのため目標KとFの知識・能力を育成し、知識・能力(f)の内容を達成している。		【T53】自己点検書 表2(a～iの抜粋) 自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](g)	自主的、継続的に学習する能力	○	添付資料【T53】に示すとおり、知識・能力(g)の内容は、本プログラムの目標HとF、I、Kの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2、3に示すように電子工学一般、実験科目、電子工学ゼミ、卒業研究科目で主として育成する。これらより、課題を自ら情報を収集して計画的に解決し、継続的に学習する能力を身につける。そのため目標HとF、I、Kの知識・能力を育成し、知識・能力(g)の内容を達成している。		【T53】自己点検書 表2(a～iの抜粋) 自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	○	添付資料【T53】に示すとおり、知識・能力(h)の内容は、本プログラムの目標IとF、Hの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2、3に示すように物理・化学実験、電子工学実験、電子工学ゼミ、卒業研究科目で主として育成する。これらの科目により、制約下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を養う。そのため目標IとF、Hの知識・能力を育成し、これより知識・能力(h)の内容を達成している。		【T53】自己点検書 表2(a~i)の抜粋 自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[2](i)	チームで仕事をするための能力	○	添付資料【T53】に示すとおり、知識・能力(i)の内容は、本プログラムの目標Iの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2、3に示すように電子工学一般、電子工学実験、電子工学ゼミ、卒業研究科目で主として育成する。これらの科目により、与えられた課題を他者と協力して解決し、チームで意思疎通がはかれる能力を身につける。そのため目標Iの知識・能力を育成し、これより知識・能力(i)の内容を達成している。		【T53】自己点検書 表2(a~i)の抜粋 自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	○	学習・教育到達目標において、水準の概要として、身につけるべき事項と能力を示している。具体的な水準については、2013年度以降の入学学生には添付資料【J02】を、2010~2012年度入学学生には添付資料【T07】を配布の上、周知している。水準の具体性は、表3のカリキュラム設計方針を包括的に含み、表2の評価方法と評価基準で裏付けることができる範囲とした。		【T01・J01】学修の手引(2013年度以降) 【J02】JABEE説明会資料(2013年度以降) 【T07】JABEE説明会 改訂資料 自己点検書(3.添付資料編) 表2、表3 電子工学科ホームページ 学習・教育到達目標 水準の概要 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index1_13.html
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	○	電子工学科の学習・教育到達目標は学内では「学修の手引」に記載されており、各年度入学の学生全員に対し配布されている。また学外に対しては芝浦工業大学のホームページに公開されている。それらには電子工学科のカリキュラムフローが示されており、学習・教育到達目標とカリキュラムフローの対応関係が示されている。個々の科目については、シラバスが公開されており、より詳細な学習・教育到達目標が示されている。		【T01・J01】学修の手引(電子工学科) 電子工学科ホームページ 学習・教育目標 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index1_13.html
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	○	新入生の学科ガイダンス時に、学科教員および新入生全員にJABEE説明会資料を配付している。同時に、JABEE説明会を開催し、学習・教育到達目標について説明を行っている。特に電子工学科がJABEEのプログラムに基づいて授業が行われることを詳細に伝えている。また学期中も各教員は学習・教育到達目標を十分認識し、授業中での周知を心掛けている。		【T01・J01】学修の手引(電子工学科) 【J02】JABEE説明会資料(2010年度以降)
2	基準2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計されていますか？	○	4年間で学習・教育到達目標を達成することができるよう表4に示すようなカリキュラムを設計した。学習・教育目標に資する科目を知識や専門の積み上げと関係づけている。具体的には、広範囲におよぶ電子工学に関連する領域のなかで、“物性デバイス分野”と“知能情報回路分野”を基本的な柱としながら、幅広い分野の基礎学力を充実することで目標を達成するようにカリキュラムを設計している。		自己点検書(3.添付資料編) 表4 【T01・J01】学修の手引(カリキュラムの構成) 【J02】JABEE説明会資料(2010年度以降) 電子工学科ホームページ カリキュラム http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/curriculum.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	カリキュラムは、大学で毎年度発行している「学修の手引」により開示されており、学科の学生に対しては“電子工学科JABEE説明会資料”による開示もされている。また、電子工学科ホームページにおいて常に開示されている。さらに各科目の開講状況は、年度初めに発行される“工学部 授業時間割表”において開示されている。		【T01・J01】学修の手引（カリキュラムの構成） 【J02】JABEE説明会資料（2010年度以降） 【T08・J04】工学部 授業時間割表 電子工学科ホームページ カリキュラム http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/curriculum.html
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	○	各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係は自己点検書の表4で示す通りであり、大学で毎年度発行している「学修の手引」内において明確に示されており、学科の学生に配布する“電子工学科JABEE説明会資料”においても示されている。		自己点検書（3.添付資料編）表4 【T01・J01】学修の手引（電子工学科） 【J02】JABEE説明会資料（2010年度以降）
2.1(1)[4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	○	標準修了年限は資料【T61】に示す通り満たしている。また、全授業時間は1600時間以上であり、このうち人文科学、社会科学等の授業時間は250時間以上、数学、自然科学、情報技術の授業時間は250時間以上、専門分野の授業時間は900時間以上である。当該分野に相応しい数学、自然科学および科学技術に関する内容の全授業時間に対する割合は、71.9%であり、基準2.1(1)「全体の60%以上」を満たす。		【T61・J01】学修の手引（学籍） 【J02】JABEE説明会資料（2010年度以降） 【T09】電子工学科JABEE小委員会議題およびたたき台2 【T10】2009年度カリキュラム検討委員会議事録(2009-1)
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2)[1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成されていますか？	○	電子工学科のシラバスは、カリキュラムフローに従って知識の積上げが行われるように配慮した上で設計し、学科ホームページに記載している。また、各科目のシラバスには、カリキュラムの設計に基づき、対応する「学習・教育目標」が示されている。		【T11】芝浦工業大学シラバス検索システム 芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 電子工学科ホームページ カリキュラム http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/curriculum.html
2.1(2)[2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	シラバスは大学公式ホームページや、学生ポータルサイト（S☆gsot）において開示されている。学生および教員共に、自由にシラバスを閲覧することができる。		【T12】芝浦工業大学 S☆gsot（学生ポータルサイト） 【T11】芝浦工業大学シラバス検索システム 芝浦工業大学S☆gsot http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/ 芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(2)[3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	○	主要な科目の評価方法・評価基準を添付資料に示す。シラバスには、授業の概要、達成目標、授業計画（予復習を含む授業時間外課題）、評価方法と基準、履修登録前の準備、学習・教育目標との対応などが記載されており、大学公式ホームページにて開示・公開されている。また、学修の手引や学科公式ホームページなどにカリキュラムフローが示されており、各科目の位置づけが見てわかるようになっている。		【T13・J05】主要講義科目のシラバス 【T14・J05】複数教員担当科目のシラバス 【T15・J06】ガイダンス資料、評価項目 【J05】卒業研究のシラバス 【T07・J07】卒業研究記録ノート 【T01・J01】学修の手引（電子工学科） 【T11】芝浦工業大学シラバス検索システム 芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 電子工学科ホームページ カリキュラム http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/curriculum.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(2)[4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	○	授業時間については「学修の手引」において1コマを90分授業とし、第1時限から第7時限まで実施されていることが開示されている。また、各授業における授業回数は前述(i)に記載のとおり、シラバスにより15回(コマ)分の予習内容、授業内容が記述されている。		【T16・J01】学修の手引(授業時間) 【T11】芝浦工業大学シラバス検索システム 【T17】芝浦工業大学時間割検索システム 芝浦工業大学 時間割検索システム http://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/ 芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				
2.2(1)[1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	○	シラバスに記載した15回分の授業計画に基づき授業を行い、授業記録を提出している。さらに学生による授業アンケートでチェックを受けている。休講等により授業実施回数が不足する場合には、学生課から担当教員に対して補講実施の要請がなされる。		【T18・J08】授業アンケート結果 【T19・J09】主要授業の授業記録 【T11】芝浦工業大学シラバス検索システム 芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				
2.2(2)[1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？	○	原則的に半期24単位の履修として無理な履修をさせず、自己学習時間を確保するように努めている。また、各科目のシラバスには授業時間外課題が示されている。さらに、導入科目である電子工学一般において、受身から自主的な学習態度へとスムーズな移行ができるよう、半期をかけて教育を行っている。		【T62・J01】学修の手引(履修) 【T14】電子工学科一般シラバス 電子工学一般シラバス http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2012/ko1/72743.html?G00 工学部電子工学科専門科目のシラバス http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2012/MatrixG00131.html
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3)[1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	○	本プログラムでは取得単位状況が学生自身の達成度の指標となっている。3年次への進級停止条件、4年次の卒業研究着手条件、および卒業要件が設定されており、継続的に成績通知書により単位取得状況を点検させることで、達成度の継続的 point check となっている。なお、成績確認時に使用する学生ポータルサイトS☆gsotには単位取得状況とは別に学習・教育到達目標の達成度(JABEE達成表)を確認することができる。		【T68・J33】成績通知書 【T12】芝浦工業大学 S☆gsot 【T22・J13】JABEE達成表 芝浦工業大学S☆gsot http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.2(3)[2]	自分自身の達成状況の継続的な点検を学習に反映させていますか？	○	3年次への進級停止条件、4年次の卒業研究着手条件、および卒業要件は、自身の卒業に関わる重要な条件であり、継続的に達成状況を点検し、その結果を学習に反映させるようなシステムとなっている。さらに、成績不振者に対しては、クラス担任が面談・学習指導を行う。		【T63・J01】学修の手引(進級卒業条件) 【T20・J10】基底科目成績不振者面談報告書 【T21・J11】警告対象者面談報告書 【T23・J14】学修指導の手引き
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(1)[1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	○	電子工学科の専門分野を、①物性デバイス系、②知能情報回路系の二つに分け、それぞれ、5名、7名の合計12名の博士号を有する専任教員で構成している。専任教員のうち4名が企業経験者であり、実務経験を通じた先端技術開発への対応能力も有している。カリキュラム運営には十分な教員数である。教育支援のためのクラス担任制度を有し、学習意欲向上、学業・研究以外の指導のための面談を実施している。		【J28】教員プロフィール 【T24】教員プロフィール（教員データベース） 教員データベース（所属の工学部より電子工学科を選択） http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 電子工学科ホームページ 教員一覧 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/stuff.html
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				
2.3(2)[1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	○	学科内委員会として、カリキュラム内容を点検・検討するカリキュラム検討委員会、実験系科目の内容を点検・検討する実験実習および施設・設備検討委員会が設置されている。検討結果について、学科構成員全員が参加する学科会議で審議し、実施するシステムになっている。共通・教養科目担当教員とは必要に応じ連絡がとれる体制となっている。		【J15】カリキュラム検討委員会議事録 【J16】電子工学科学科会議議事録 【J25】電子工学科JABEE小委員会議事録 【T69】共通学群（共通科目教員）との連絡体制
2.3(2)[2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？	○	学科会議は月ごとに開催しており、また必要に応じてカリキュラム検討委員会及び実験実習および施設・設備検討委員会を実施しており、現状では必要十分な教員間をつなぐ活動を行っている。共通・教養科目担当教員とはメール連絡によりカリキュラムの調整を行ったり、講義内容の要望について学科でのヒヤリングを行っている。		【J15】カリキュラム検討委員会議事録 【T25・J16】電子工学科学科会議議事録 （1. 審議事項(3)） 【T26】共通・教養科目担当教員とのメール連絡内容
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.3(3)[1]	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがありますか？	○	大学全体のFD・SD改革推進委員会があり、学内外の優れた教育改善の取り組みの共有化と自らの教育改善に活かすことを目的に、講演会を企画している。また、工学部では、2003年4月に教育開発本部を設置し、工学教育プログラム及び教育システムの検証、評価、開発、企画・運営、FD活動などの業務と共に、授業評価アンケートの実施方法・質問項目・公開方法等の継続的な検討を行っている。		【T28】2012年度 年間活動スケジュール 芝浦工業大学ホームページ FDの取り組み http://www.shibaura-it.ac.jp/about/
2.3(3)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	大学全体のFD・SD講演会は、学科会議や電子メールなどで周知し、参加を呼びかけている。大学全体のFDへの取組などは、大学ホームページでも公表している。また、教育開発本部の活動内容の教授会での報告、FDニュースレターの配布、Webサイトへの掲載を行っている。		【T29・J16】電子工学科学科会議議事録 芝浦工業大学ホームページ FDの取り組み http://www.shibaura-it.ac.jp/about/
2.3(3)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	○	全学で定期的にFD講演会を実施し、多数の専任教員・非常勤講師が出席している。2008年度から全学FD・SD講演会と改め、年1回から複数回実施へ拡大している。授業評価アンケートは、1997年前期から実施している。2003年より教育開発本部に引き継がれ、継続的改善を行っている。		【T30】第1104回教育開発本部研究開発部門会議記録 【J26】教育開発本部研究開発部門会議記録 【T31】FD講演会開催記録 【T32】シラバスアンケート集計 芝浦工業大学ホームページ FDの取り組み http://www.shibaura-it.ac.jp/about/
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従って教育改善に資する活動が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(4)[1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	○	2010年4月より、大学全体で専任教員の、①教育活動、②研究活動、③大学運営（社会貢献含む）について、教員の自己点検評価を行っている。教育活動は、学士課程教育、大学院教育、学生支援活動等を対象としている。毎年度4月に、大学の方針、学部・学科の教育目標を確認し、達成目標と活動計画を「目標計画書」に、評価項目ごとの貢献比率と併せて記述し、毎年度3月に、目標の達成度、改善点を「自己評価書」に記述する。		【T33】工学部教員資格審査規程 (第1010回工学部主任会議資料) 【T60】自己点検評価システム
2.3(4)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	教員業績情報システムから閲覧できる「使用手引き書（教育研究業績評価マニュアル）」により仕組みが開示されている。なお、このシステムから、教育研究等業績評価の大学方針/目標、工学部の教育方針・目的の閲覧ができ、また、教育・研究等業績評価シート（目標計画書・自己評価書）への入力と教育活動業績・研究活動業績・大学運営社会貢献業績の入力ができる。		【T34】教育・研究等実績評価の実施ならびに情報公表について 【T35】芝浦工業大学教員教育・研究等業績評価規程 【T24】教員プロフィール（教員データベース） 教員データベース(所属の工学部より電子工学科を選択) http://resea.shibaura-it.ac.jp/
2.3(4)[3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	○	教育・研究等業績評価のための自己点検評価により、目標と達成度を明確化し、改善を行うPDCAサイクルを確立している。また、2010年度より、教員資格の職能要件に基づく再審査を5年ごとに実施する。また、優秀教育教員顕彰制度があり、担当授業運営や教育改善活動において優秀な実績を挙げた教員を顕彰している。受賞者は、大学全体FD研修会にて授業内容のプレゼンテーションを行い、教員相互の教育改善に役立てている。		【T34】教育・研究等実績評価の実地ならびに情報公表について（目標設定時） 【T31】FD講演会開催記録
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって選抜が行われていること。				
2.4(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？	○	資質を持った学生を募集するため、アドミッションポリシーを公開している。また、一般入学試験（前期一般入試、全学統一入試、後期一般入試、および大学入試センター利用試験方式）のほか、特別選抜方法として推薦入学（工学部指定校推薦入学、併設高校推薦入学など）、帰国生徒特別入試、外国人特別入試、学士入試および編入学入試の選択方法が定められている。		【T36・J17】芝浦工業大学広報誌 芝浦工業大学ホームページ アドミッションポリシー http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/admission_policy/engineering.html
2.4(1)[2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？	○	入試方法は、①入試ガイド（入試要項概要）の配布、②入試要項の配布、③大学Webへの掲出、④主要受験雑誌・主要新聞への掲出、⑤指定校などへの直接通知、等で開示している。入試情報や学部・学科の内容等については適宜Webを利用して開示している。さらに年2回開催されるオープンキャンパスでは参加する受験生に対して、入学に関する広範な情報を提供している。		芝浦工業大学ホームページ 入試情報 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/ 入試概要 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/pdf/admission_summary.pdf 帰国生徒特別入学試験 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/returnee_exam.html 外国人特別入学試験 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/foreigner_exam.html 学士入学試験 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/bachelor_exam.html 【J18】一般入学試験要項 【T37・J19】指定校推薦入学制度による入学者の推薦について（高校宛指定校関連文書）

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(1)[3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	○	資質を持った学生を募集するアドミッションポリシーを公開した上で、一般入学試験（前期一般入試、全学統一入試、後期一般入試、および大学入試センター利用試験方式）のほか、特別選抜方法として推薦入学（工学部指定校推薦入学、併設高校推薦入学、など）、帰国生徒特別入試、外国人特別入試、学士入試および編入学入試の選択方法が実施されている。		【T38】入学試験結果
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の決定が行われていること。				
2.4(2)[1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められていますか？	－	電子工学科では、在籍する学生全てがJABEEプログラム対象となるため設定していない。		【T01・J01】学修の手引（教育方針） 【J02】JABEE説明会資料（教育プログラム概念）
2.4(2)[2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	－	電子工学科では、在籍する学生全てがJABEEプログラム対象となるため開示は行っていない。		【T01・J01】学修の手引（教育方針） 【J02】JABEE説明会資料（教育プログラム概念）
2.4(2)[3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の決定が行われていますか？	－	電子工学科では、在籍する学生全てがJABEEプログラム対象となるため該当しない。		【T01・J01】学修の手引（教育方針） 【J02】JABEE説明会資料（教育プログラム概念）
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それに従って履修生の編入が行われていること。				
2.4(3)[1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	○	具体的方法は定められている。具体的方法は、基本方針、移籍により電子工学科で履修できる条件、単位認定、である。基本方針は、原則としてJABEE認定校または認定準備校（大学および高等専門学校）から、編入学、学士入学、を受け入れる。外国からの編入学、学士入学に関しては、ワシントンアコードに加盟しているプログラムからのみ受け入れる。		【T25】2010年第5回電子工学科会議議事録（1. 審議事項(1)） 芝浦工業大学工学部電子工学科ホームページ 転部・転科および編入に関する履修条件 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index2.html
2.4(3)[2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	○	基本方針、移籍により電子工学科で履修できる条件、が本学電子工学科のホームページで開示されている。今後、編入学募集を行う場合には上記の具体的な方法を募集要項にも記載する予定である。単位認定の方法は、2010年第5回電子工学科会議議事録に記載されている。この議事録は、教員のみ閲覧が可能である。		【T25】2010年第5回電子工学科会議議事録（1. 審議事項(1)） 【T39】芝浦工業大学編入学規程 編入学試験 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/transfer_exam.html 電子工学科ホームページ 転部・転科および編入に関する履修条件 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index2.html
2.4(3)[3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？	－	2011年度入学生よりJABEEプログラム修了生としているために、2012年度2年次への編入学生が対象となるが、募集が行われず、実績がまだない。将来、学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われる予定である。		
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の異動が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(4)[1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められていますか？	○	具体的方法は定められている。具体的な方法とは、基本方針、移籍により電子工学科で履修できる条件、単位認定である。基本方針は、JABEE認定学科または認定準備学科からのみ、転部・転学科での異動を受け入れる。ただし、2年次のみで、3年次への異動は認めない。		【T25】2010年第5回電子工学科会議議事録（1. 審議事項(1)） 電子工学科ホームページ 転部・転科および編入に関する履修条件 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index2.html
2.4(4)[2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	○	基本方針、移籍により電子工学科で履修できる条件、が本学電子工学科のホームページで開示されている。今後、募集を行う場合には上記の具体的な方法を募集要項にも記載する予定である。単位認定の方法は、2010年第5回電子工学科会議議事録に記載されている。この議事録は、教員のみ閲覧が可能である。		【T25】2010年第5回電子工学科会議議事録（1. 審議項目(1)） 編入学試験 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/transfer_exam.html 電子工学科ホームページ 転部・転科および編入に関する履修条件 http://www.ele.shibaura-it.ac.jp/jabee/jabee_index2.html
2.4(4)[3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の異動が行われていますか？	—	2011年度入学生よりJABEEプログラム修了生としているために、2012年度2年次への転部・転学科の学生が対象となるが、募集が行われず、異動の実績はまだない。将来、異動が行われる場合には、上記の具体的方法に従って履修生の異動が行われる予定である。		
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。				
2.5(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	○	工学部の講義室は86室、演習室・実験室は、教員の研究室を含み131室ある。実習室・製図室は、各々12室、7室である。豊洲・大宮・芝浦の各校舎には、コンピュータ実習室、図書館（自習可）、食堂（生協）、休憩施設、フリースペース（自習・休憩可）が設置されている。授業や学生の自主学習を通し、学習・教育到達目標を達成するための環境が整備されている。		【T40】大学敷地面積明細 【T41】工学部のコンピュータ・ルームの施設内容 【T42】豊洲・大宮両キャンパスにおけるアメニティー 【T43】芝浦工業大学 図書館について 【J20】SIT CAMPUS GUIDE 2010-2012
2.5(1)[2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	○	中期的な財政の安定化実現を目指し、経常的な支出の削減や施設設備投資計画の選別を図っている。収入の中心の学生生徒等納付金が安定的に確保されており、支出の中心を占める人件費が適正な水準で推移している。日本私学振興・共済事業団調査による平均値（全国の医歯系を除く大学法人対象）と比較すると、人件費比率は同平均より低い数値で推移しており、財政基盤は安定している。		【T44】財務比率推移 【T45】消費支出推移
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.5(2)[1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	○	学習を支援する仕組みとして、オフィスアワーを設け、さらに工学部学習サポート室を開設している。学習サポート室には基底科目（数学・物理・化学・英語）の教員が中心に待機し、学生が常時利用できる態勢を取っている。授業中の疑問点や学習の進め方についてのアドバイスなど、学習全般の相談の場として多くの学生が利用している。また、学科独自または大学共通で授業アンケートを実施し、学生の要望を収集して配慮している。		【T13】代表的なシラバス 【T04・J31】学科アンケート 【T18・J08】授業アンケート結果 工学部学習サポート室ホームページ http://kvoikukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/support_top.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.5(2)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	○	個別科目のオフィスアワーについて、シラバスに記載している。学習サポート室の目的や使い方について大学Webに掲載されており、教員、職員及び学生に開示されている。大学全体の取り組みであり、教員・職員はその仕組みを理解している。入学時での学科ガイダンスにおいて、学習サポート室について学生に周知している。また、学生の要望にも配慮することについてJABEE説明会資料に記載している。		【T13】代表的なシラバス 【J02】JABEE説明会資料（JABEE制度に関して） 工学部学習サポート室ホームページ http://kvoikukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/support_top.html
2.5(2)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	○	学習サポート室の活動状況については、web上で確認ができる。教育環境および学習支援に関して、放課後の教室、図書館、学習サポート室の利用ができる。学科独自のアンケート結果は学科HPに、授業アンケートについてはシラバスホームページから閲覧できる。		工学部学習サポート室ホームページ http://kvoikukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/cgi-bin/downtree/downbbs.cgi? 芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				
3(1)[1]	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？	○	根拠資料に、代表的講義科目および複数担当教員科目の評価に関わる資料を示す。シラバスに示した評価方法と評価基準に従い、評価を行っている。複数教員科目では共通の評価項目で評価している。		【T13・J05】主要講義科目のシラバス 【J09】主要講義科目の試験問題 【T46・J09】主要講義科目の試験答案 【T14・J05】複数教員担当科目のシラバス 【T15・J06】複数教員担当科目のガイダンス資料、評価項目 【T47・J09】複数教員担当科目の評価に関わる資料（レポート、プレゼンテーション資料） 【T27】卒業研究のシラバス 【T07・J07】卒業研究記録ノート 【T52・J09】卒業研究評価シート 芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関しても、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。				
3(2)[1]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	○	教育上必要と認めるときは、本学工学部の単位として認定する制度を「工学部学外単位等認定制度規程」で定めており、学修の手引きで学外単位認定制度として学生に周知している。具体的には、工学部教務委員会が単位認定の申請を受けて、シラバスの審査を含み共通系または当該専門学科へ認定案の作成が依頼され、その結果が教務委員会で審議されて認定の可否が決定される。		【T48】工学部学外単位等認定制度規程 【T49・J01】学修の手引き 学外単位認定制度について
3(2)[2]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	-	JABEE対応のプログラム以前には編入と単位認定の実績はあるが、JABEE対応プログラムでの実績はまだない。		

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(2)[3]	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	○	編入生等に対しても本学工学部の単位として認定する制度を「工学部学外単位等認定制度規程」で定め、工学部教務委員会が単位認定の申請を受けて、審議を行い認定の可否を決定する。学科においては、学科主任、カリキュラム担当の教員で、授業内容が一致しているだけでなく、達成目標や評価方法および評価基準が明確であるか、本プログラムで定めた学習・教育目標に対応しているか、編入元のシラバスを精査して申請している。		【T25】2010年第5回電子工学科会議議事録（1. 審議事項(1)） 【T48】工学部学外単位等認定制度規程
3(2)[4]	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	○	2012年度4月1日、JADプログラムを修了したマレーシア留学生3名を電子工学科3年に編入生として受け入れた。編入において、学科からの単位申請は学科主任、カリキュラム担当委員でシラバスを参照に認定案の作成を行い、教務委員会に申請した。教務委員会の審議により認定が決定され、教授会で報告された。		【T50】第1102・1201回教授会資料 マレーシアプログラム編入生単位認定について 【T51】マレーシア編入生の単位認定結果
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。				
3(3)[1]	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？	○	自己点検書の表2に学習・教育到達目標のAからKの各項目の達成度の評価方法と評価基準を示している。複数教員担当科目および卒業研究について、資料J06及びJ07に示すような共通の評価項目がある。各学習・教育目標についての達成度の総合的な評価は、JABEE説明会資料および学修の手引きに示す各学習・教育到達目標ごとに設定された科目を履修しその単位履修状況を記したJABEE達成表により達成度を確認する。		自己点検書 表2 【T01・J01】学修の手引（学習・教育到達目標とカリキュラムフローの対応） 【J02】JABEE説明会資料（学習・教育到達目標とカリキュラムフローの対応） 【T15・J06】複数教員担当科目の評価項目 【T07・J07】卒業研究記録ノート 【T52・J09】卒業研究評価シート 【T22・J13】JABEE達成表
3(3)[2]	上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？	○	複数教員担当科目および卒業研究について、資料J06及びJ07に示すような共通評価シートによる評価を行った。また、2010年度入学生以降は学習・教育目標に対する達成度を表す成績表がS☆gsot上に示される。		【J09】J06、J07の実際的评价結果 【T12・T22・J27】S☆gsot上のJABEE達成表
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4)[1]	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？	○	学習・教育到達目標全てが満たされる科目及び必要な単位数を取得することが卒業要件となるように設定を行っている。そのため、学科の卒業要件を満たした学生が修了生となり、学習・教育目標を満たす。また、JABEE達成表で確認することができる。		【T01・J01】学修の手引（学習・教育到達目標とカリキュラムフローの対応） 【J02】JABEE説明会資料（学習・教育到達目標とカリキュラムフローの対応） 【T22・J13】JABEE達成表
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(5)[1]	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？	○	表2に示すように、学習・教育到達目標A～Kを達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけられるようなカリキュラムとなっている。		【T53】自己点検書 表2(a～i)の抜粋)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4	基準4 教育改善				
4.1	4.1 教育点検				
4.1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				
4.1(1)[1]	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？	○	教員の意見に基づき、達成度の評価や教育手法等について、JABEE小委員会および学科会議で点検・検討している。2013年度以降は、JABEE小委員会の整理に伴い、電子工学科JABEE委員会およびカリキュラム検討委員で点検する内規を策定した。		【T64・J16】学科会議議事録 【T54・J22】電子工学科内規
4.1(1)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	資料【T09】により、各小委員会の役割について専任教員に周知している。2013年度以降は、電気電子学群書記センターで専任教員および非常勤講師が閲覧できる。また、学科内共有サーバに保存しており電子ファイルで確認することもできる。		【T09】電子工学科JABEE小委員会議題およびたたき台（学科会議資料） 【T54・J22】電子工学科内規 【J29】電子工学科内共有サーバ
4.1(1)[3]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	○	資料【J16】に示すように、カリキュラム、卒業要件、学習教育到達目標、ディプロマポリシーの改訂、学生像、技術者像の策定等を行っている。また、上記内規に基づいて「電子工学科成績分布及び試験問題の教員間相互参照に関する打ち合わせ」を実施した。自己学習量を増やすことを目的に試験方法を変更したり、学習効果を高める目的に演習科目の実施方法を変更した。		【J15】カリキュラム検討委員会議事録 【T64・J16】学科会議議事録 【T55・J23】電子工学科成績分布及び試験問題の教員間相互参照に関する打ち合わせ」議事録
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				
4.1(2)[1]	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？	○	企業を対象とした取り組みとして、リクルーターにアンケートを実施し、学科JABEE委員会においてプログラムへの反映を検討する。学生を対象とした取り組みとして、アンケートを実施したり、クラス担任制を通じて、学生からの要望に応じている。学生の父母に対しては、年一回、父母懇談会を実施しており、父母からの意見や要望を教員に伝え、教員がその要望に配慮している。		【T56・J21】リクルーターアンケート 【T04・J31】学科アンケート 【T57・J24】父母懇談会関連資料（後援会日より）
4.1(2)[2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？	○	上位の工学部教育点検システムが存在し、本システムのPDCAサイクルが機能することで、本点検システムを点検できる構成となっている。さらに、この工学部教育点検システムの点検評価については「学校法人芝浦工業大学評価委員会」が存在し、自己点検・評価、外部評価、第三者評価を実施している。		工学部教育点検システムと改善の流れ http://www.shibaura-it.ac.jp/campuslife/jabee_effort.html 学校法人芝浦工業大学評価体制図 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/educational_foundation.html
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？	△	本プログラムの教育活動の点検は、学科会議、カリキュラム検討委員会、実習・実験及び施設・設備検討委員会により、実施されている。これらの議事録に関しては、電子工学科全教員に配布され、開示が行われている。また、資料の共有が容易になるよう学科ファイルサーバも設置されている。教員間連絡ネットワークとしてメーリングリストが存在し、このメーリングリストを通じて、相互の連絡を行っている。		【T64・J16】電子工学科会議議事録資料 【J15】カリキュラム検討委員会議事録 【T58】実習・実験及び施設・設備検討委員会議事録 【J29】電子工学科内共有サーバ 【T65】学科内メーリングリスト

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	○	工学部教育点検システムが該当する。本システムのPDCAサイクルが機能することで、本点検システムを継続的に点検できる構成となっている。一方、学科では基準1～3に則して、定期的なアンケートの実施、定期的なカリキュラム検討委員会、及び実習・実験及び施設・設備検討委員会の開催が行われており、継続的に教育点検および教育改善するシステムが存在する。		学校法人芝浦工業大学評価体制図 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/educational_foundation.html 【T59】電子工学科PDCAの図
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	○	工学部でFD活動に関する依頼がある場合、学科主任、教育開発本部委員から学科会議にて検討が依頼される。カリキュラム検討委員会は、年2回程度、教育目標、カリキュラム、卒業要件の見直しを行っている。また、学科での教育改善については、学科自らが自発的に教育改善についての議論を行う場合もある。学科内の共有施設、設備を中心に実習・実験及び施設・設備検討委員会で検討が行われている。		【T64・J16】電子工学科会議議事録資料 【J15】カリキュラム検討委員会議事録 【T58・J30】実習・実験及び施設・設備検討委員会議事録 【T31】FD講演会開催記録